



実力錬成期～秋の学習計画を練ろう～

◆ 10・11月の学習を冷静に考える

受験の可否は「共通テスト+個別」の総合点で決まりますので、自分の志望大学の配点を見直しておくことは必要です。10、11月は一般的には個別試験の重点期ですが、**最優先事項はそれぞれの志望校と現時点の学力で異なります**。裏面の志望校タイプ別学習法を参考に、自分に合った対策を見つけ、秋の学習計画を再度確認しましょう。一日、一時間を大切に、然るべき学習を然るべき時期に行うことで、実力を錬成していこう。

◆ 「過去問」を活用しよう

過去問に目を通すことは、出題傾向と最終目標を知る上でとても有効です。また、志望校の合格最低点が分かれば、自分の学力と合格点とのギャップを知ることができます。たとえばある国公立大学（共テ 900 点個別 400 点）の過去問を解き 150 点取れたとします。合格最低点が共通テスト併せて 800 点だとすると、共通テストで **650 点!** を取ることができれば合格になります。このように、早めに個別試験の問題をみることで、現時点での実力と立ち位置がわかります。過去問をフル活用し、自分の課題と合格までの道筋を確認しよう。

◆ 国公立大学の公募制推薦入試の利用について

9月以降、希望者の受け付けを開始しています。メリットとデメリットをよく勘案して、上手に活用したいものです。下記について再確認してください。

①長野県内の国公立大学

- ・信州大学：本校からはここ数年、教育・医・工・繊維・経法などの学部実績があります。
- ・長野県立大学（グローバル）：県内枠として全体で2割以上になるよう設定しています。
- ・長野県看護大学：地域枠あり（県内過疎地域での保健医療に従事する意志がある受験者）。
- ・長野大学、諏訪東京理科大学：成績基準なしです。例年本校から合格実績複数あり。

②全国の共通テスト利用推薦 …受験負担が少ないため、本命校での有無を確認しよう。

223名の共通テスト志願票を発送しました

9月下旬の吉日、中間テストの午後に皆さんから預かった大切な志願票の郵送を終えました。やっと涼しくなった秋空の下、K先生とともに、まず恒例の善光寺参拝。大香炉で焼香し、その煙を志願票に炊きこめました。授与品所で「御祈祷木札（合格祈願）」も授かりました。仲見世通りを抜け、善光寺郵便局で発送して無事に手続きを終えることができました。今後は、10/25（金）までに確認はがきが返送される予定です。



秋の虫は弱気の虫!?

◆受験科目を減らす前に

本校の卒業生を見ると、5(6)教科7科目型で共通テストを出願した生徒が多い学年は、国公立大の進学者数はもちろん、現役進学率も高い(浪人が少ない)傾向であることが明らかです。今年度も、多くは1000点満点での出願となっていますが、それでも時々「受験科目を減らしたい」という相談を受けることがあります。秋めいてきて、受験が現実的になってきたからなのかもしれませんが、共通して「少ない教科だけに集中すれば合格が近づく」「科目を絞れば受験勉強が楽になる」かのような思い込みで悩んでいるようにも感じます。「いいえ、私の志望校はこの科目だけでいいんです!」と力説されても、いままでより難しい大学や入試区分だけに決め込み、自分から可能性を狭めてしまう『負のスパイラル(難化のスパイラル)』に陥っているとしか見えません。あらためて、その理由を整理しておきましょう。

◆私立専願、3教科型・2教科型への転向

早くから私立専願に決めている人はいいのですが、国公立文系志望の諸君にこの傾向が見え始めました。首都圏の主な私立大学は難易度、競争率ともにたいへん高く、そう簡単に合格するものではありません。首都圏の受験生は「彼らにとっての地元の大学」に進学したいからこそ、君たちよりずっと前から科目を絞って専念しています。それに対して、地方出身の公立高校生が立ち向かう術は、国公立型にあるのです。確かに首都圏の国公立大も難しいのですが、国公立型の学習を継続した方が最終的な合格可能性は広がるといえるでしょう。

また、「得意科目を生かす」という甘い言葉も疑問です。あなたの得意科目って本当の得意ですか。絶対的な高得点科目といえるのでしょうか? 全統で偏差値60超(進研なら65超)なのですか? 全国平均の学力を“得意”とは呼びません。まして、私大2教科型(同じ大学同じ学部の入試の内、最高偏差値=最難関)への絞り込みなど論外と言えます。



◆アラカルトの価値

理社1科目ずつの7科目型は公立大学を中心に散見されますが、結果として8科目型の大学よりも難しくなっています。また、どちらを削るのかも難しい選択です。これから集中して学習を深めると、これまで得意だと思っていた教科が並で、苦手だった科目が得意科目に伸びることは十分にありえます。また、高崎経済大学や長野県立大学などのアラカルト方式(該当する受験科目の内、高得点科目を採用)の場合、絞り込みは平均点の上下の影響を受けやすくなるため危険です。科目の絞り込みが、出願可能校を大幅に減らすこと、難易度を上げること、さらには大きなリスクを背負うことになるという現実を直視してください。

<例>高崎経済大学 地域政策学部(前期 定員200名)

		英	数	国	理	社	情報	小論文	計
共通テスト	5教科型	350	(150)	(150)	(150)	(150)	(150)		950※
	3教科型	200	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)		400※
個別試験	2科目		(200)			(200)		200	400

まず5教科型で100人が合格し、次に3教科型で100人を判定する。

つまり、5教科型では2回のチャンスがあることになる。

※数・国・理・地公・理・情報→4または2

◆努力した者が全て報われるとは限らない、
しかし！成功した者は 皆すべからく努力している！！

たとえば地元の信州大学教育学部の学生募集要項には、大学入学時までには身につけておくべきことに、『小学校の教員を目指す学生には、各教科に対する得手、不得手を超えて、各教科にわたる広い教養と学力を身につけていることを求め、高等学校等において、基礎的で確かな学力と専門領域を深めるための学力とを身につけておくことを望みます』と明記されています。実際、全国のほとんどの教員養成系学部は8科目型が主流です。（信州大学は一部の学部学科を除き、ほぼ全ての学部で8科目型受験を課しています。）

これは教育系に限ったことではありません。夏休みからようやく本格的な受験勉強の端緒についた生徒が多いのではないですか？ 厳しいようですが、**学びから逃避する者、向学心のない者、学生の資質に欠ける者は進学に向きません。**

◆いまは誰にとっても試練の時。弱気の虫は退治して、学習を進めよう！

本校は「晴耕雨読」のもと文武両道を標榜してきました。たとえ苦しくても、出遅れた理科社会に追い立てられながら、英数国の力も少しでも伸ばそうと努力し続ける姿が、学習と班活動の両立に励んだ吉田生には似合います。そして、これこそが合格への近道なのです。

あなたの第一希望は、あなたが選んだ方法でしか手に入らないのです。最後の最後まで精一杯した努力の先にしか、自分が納得できる進路は拓けません。私たちにも受験生のつらさは十分に分かっています。私たちは頑張っている皆さんをずっと応援し続けます！

◆過去の「合格体験記」より

二学期が始まってからは、授業がある日は5,6時間、休みの日は10時間くらい勉強しました。このころから週に2,3本ずつ英作文を先生に添削してもらっていました。二次試験は記述問題が多いので11月位まで少しずつ過去問研究をしました。記述は先生に添削してもらおうといいです。特編Aが始まってからは復習で精いっぱいでした。その日の授業はその日のうちに復習するようにしました。

センターの後の特編Bになると授業に来る人が少なくなりやる気がそがれてしまいがちでしたが、最低でも10時間はやると自分のノルマを決めモチベーションを維持しました。

1年を通して大切だと思ったのは、睡眠と食事と適度な運動です。健康でないと何もできません。そして、健康でいるには規則正しい生活を送るのが確実かつ簡単な方法です。

最後に、長いと思っていた夏休みもセンターや二次試験への道のりも受験生としての生活も全部意外とあっという間に過ぎていきました。くじけそうにも折れそうにも何回もなりました。でも、私は一人じゃなかった。同じように頑張っている仲間の姿が、支えてくれる家族や先生の存在があったから最後まで頑張れました。苦しくなったらちょっと周りを見てください。その状況に感謝することができればもうちょっとがんばれるはずですよ。

◆大学・入試タイプ別学習法の概要

	～11月	～共通テスト試験	～個別学力検査
共通テスト試験重視型国立大	<p>徹底的に基礎を固める</p> <p>過去に受験した模試や実力検査の解き直しをしましょう。その際、不正解の問題だけでなく、あいまいなまま正解した問題も全てチェックし、不安な分野を1つずつなくすことが大切です。共通テスト試験で確実に得点できるよう基礎力を強化しましょう。</p>	<p>共通テスト試験対策に重点</p> <p>共通テスト過去問・共通テスト予想問題の演習に取り組み、不正解箇所は、教科書の基本に戻って復習しておくことが大切です。正解箇所についても再確認し、あいまいな部分も完全に理解するよう心がけましょう。また、毎回目標時間を決め、時間を計って問題を解くようにしましょう。</p>	<p>焦らずに自分の力を信じる</p> <p>個別学力検査までの約1か月間は、志望校の出題傾向に沿った対策を徹底的に行う時期です。共通テスト試験の結果によっては出願校変更もあり得ますが、焦ることなく受験準備に取り組みましょう。自分の力を信じて最後まであきらめずにがんばることが大切です。</p>
個別学力検査重視型国立大	<p>苦手分野をすべて克服する</p> <p>この時期は個別学力検査対策に集中しましょう。受験校の出題形式や傾向をしっかり確認しておくことが大切です。特に「個別学力検査に課される科目のうち最低2科目で苦手分野をなくす」ことを心がけ、徹底的に苦手を克服しましょう。</p>	<p>あやふやな知識をなくす</p> <p>この時期から学習内容を共通テスト試験対策中心に切り替えます。まずはあやふやな知識のままでも正解していたところを完全に理解することが大切です。過去に受験したマーク模試の復習が効果的です。また、実際の制限時間よりも少し短めに時間を設定して問題演習をするようにしましょう。</p>	<p>あきらめずに逆転をめざす</p> <p>共通テスト試験の結果に安心せず、個別学力検査までは過去問を中心に問題演習を続けましょう。たとえ共通テスト試験で失敗しても、これまでのがんばりがあれば、個別学力検査で逆転の可能性もあります。最後まであきらめない気持ちで臨むことが大切です。</p>
私立大	<p>得意科目を伸ばす</p> <p>この時期には、難易度に幅を持たせて、受験校を数校に絞り込みましょう。学習面では、苦手な分野をなくすとともに、得意科目を1つでも多くつくるのが大切です。第1志望校の受験準備として、過去問の傾向・内容をよく調べ、類題を数多くこなして問題に慣れておきましょう。</p>	<p>基礎・基本は完璧な理解を</p> <p>共通テスト試験対策を通して、各教科の基礎・基本の強化を図りましょう。第1志望校の受験科目の中で、高得点をねらえる得意教科を持っていくと強みになります。理科、地歴・公民は教科書の基本事項から出題されることが多いので、比較的短時間で成績を伸ばすことができるかもしれません。</p>	<p>併願校の入試で予行演習</p> <p>第1志望校の受験が後半になるようにスケジュールを組み、併願校の入試を予行演習として利用するのも1つの方法です。共通テスト試験や併願校の入試で弱点が見つければ、その都度復習を繰り返し、第1志望校の入試当日に学力がピークになるように計画を立てましょう。</p>

